

テーマは「漁業産出額（令和6年）」



東北の漁業産出額はやや減少していますが、宮城県・青森県が牽引し、「まぐろ類」を中心に全国上位の競争力を維持しています。一方で魚種別の不漁や地域間格差がみられます。こうした東北の現状についてみていきましょう。

*「漁業産出額」は、都道府県を推計単位とし、海面漁業生産統計調査結果から得られる魚種別生産量に水産庁「産地水産物流通調査」、行政機関、主要産地の市場、関係団体等から得られる魚種別産地卸売価格を乗じて推計したものです。

Vol.37 [令和8年6月]

「まふナビ東北」では、各種政府統計調査結果や行政データ等を活用して分析した東北農林水産業の実態に関する分析データをお届けします。

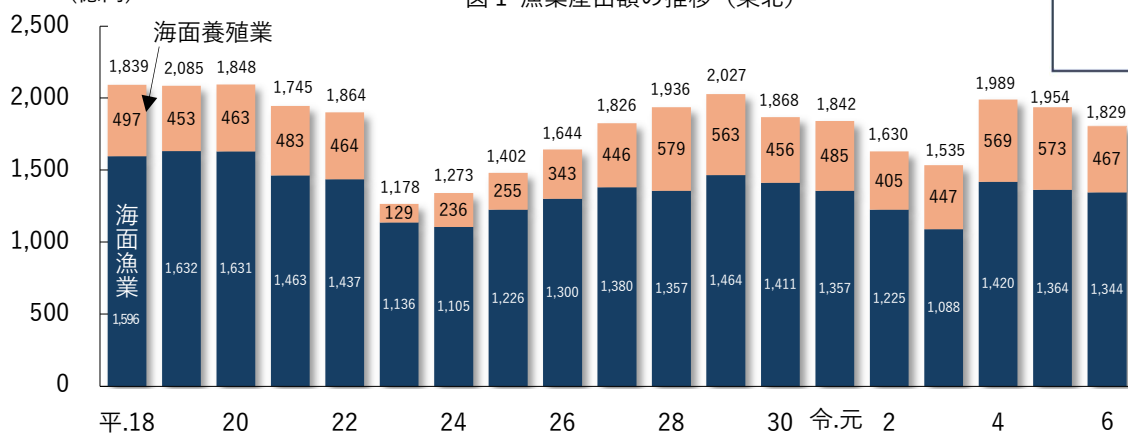
農林水産省

東北の漁業産出額は前年に比べて 125 億円（6.4%）減少

東北の漁業産出額（令和6年）は1,828億9千万円で、前年の1,953億8千万円から125億円（6.4%）減少しました。これは、特に海面養殖業の収穫量が減少したためです（図1）。

（億円）

図1 漁業産出額の推移（東北）



注1：東北の漁業産出額は、各県の産出額を公表単位（百万円）で積み上げたものである。表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

2：図1における海面漁業及び海面養殖業は、各県の積み上げ値のため、秘匿の県については除外した。そのため、合計値と内訳が一致しない場合がある。

全国トップ10に東北2県がランクイン

東北の各県の漁業産出額（令和6年）をみると、宮城県が843億円と東北で最も多く、全国順位は4位となっており、続いて青森県（446億円）も全国順位トップ10に入っています（図2）。

また、全国の都道府県ごとに漁業産出額が一番多い品目をみると、「まぐろ類」が8県で最も多くなっており、東北6県は宮城県、青森県及び岩手県が「まぐろ類」、秋田県が「かに類」、山形県が「いか類」及び福島県が「いわし類」となっています（図3）。

図3 各都道府県の1位魚種（令和6年）

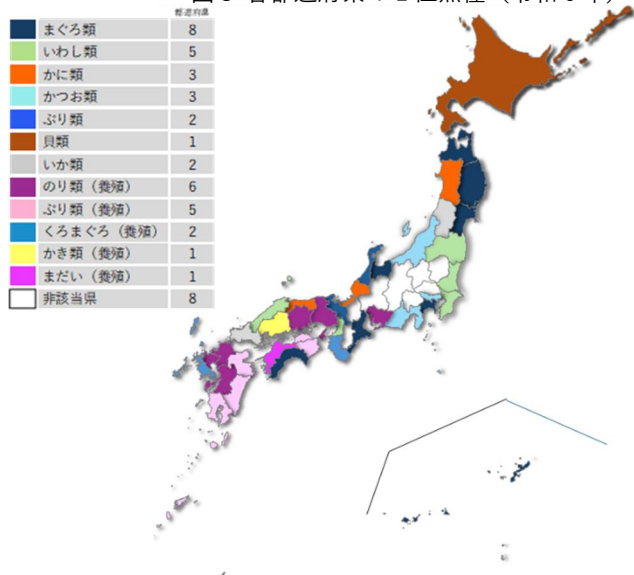


図2 漁業産出額の上位20都道府県（令和6年）



注1：都道府県の全国順位横の（ ）内の矢印は前年の全国順位との比較（順位に変動があった場合は前年順位を併記）である。
2：産出額横の（ ）内の数値は対前年比である。
3：「漁業」は「海面漁業」、「養殖」は「海面養殖業」である。

※茨城県は海面漁業、海面養殖業いずれも秘匿のため合計のみとした。



漁業産出額上位 10 魚種の全国ランキング

東北各県の漁業産出額上位 10 魚種をみると、青森県の「いか類」、宮城県の「まぐろ類、ぎんざけ（養殖）、わかめ類（養殖）、さめ類」が全国順位 1 位となっています。各県とも全国順位で上位の魚種があり、なかでも宮城県は上位 10 魚種のうち 9 魚種が全国順位 5 位以内にランクインしています（表）。

表 東北各県の漁業産出額上位 10 魚種とその全国順位（令和 6 年）

順位	東北	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県
	億円	順位 億円	順位 億円	順位 億円	順位 億円	順位 億円	順位 億円
1	まぐろ類 417	まぐろ類 4 108	まぐろ類 6 85	まぐろ類 1 196	かに類 13 3	いか類 28 2	いわし類 12 32
2	いか類 158	いか類 1 92	わかめ類 2 43	かつお類 2 107	貝類 23 2	かに類 17 2	まぐろ類 13 26
3	かつお類 116	はたてがい 2 84	さんま 2 31	ぎんざけ 1 97	えび類 27 2	えび類 28 2	さんま 4 22
4	ぎんざけ 109	なまこ類 2 25	いか類 6 27	のり類 5 69	ひらめ・かれい類 23 2	貝類 26 2	ひらめ・かれい類 5 9
5	いわし類 102	ひらめ・かれい類 3 14	いわし類 14 22	わかめ類 1 54	いか類 33 2	たい類 24 2	たこ類 8 5
6	はたてがい 99	たら類 2 14	かき類 6 20	いわし類 8 39	あまだい類 8 1	さわら類 26 1	いか類 23 3
7	わかめ類 98	いわし類 24 9	たこ類 2 19	いか類 4 32	まぐろ類 28 1	まぐろ類 29 1	かつお類 17 2
8	さんま 87	さんま 7 8	うに類 2 16	さば類 2 31	あじ類 27 1	ひらめ・かれい類 30 1	さば類 21 2
9	のり類 71	うに類 3 8	さば類 5 16	かき類 4 30	たい類 33 1	たら類 7 1	貝類 27 2
10	さば類 53	たこ類 6 8	ぶり類 9 12	さめ類 1 25	さけ・ます類 4 1	さけ・ます類 5 1	のり類 16 2

注 1：各県の枠内に記載の順位は、該当魚種の全国順位である。赤字は、全国順位が 5 位以上の魚種である。
2：赤色の塗りつぶしは海面養殖業の魚種、塗りつぶしのないものは海面漁業の魚種である。



1 漁業経営体当たりの漁業産出額

1 漁業経営体当たりの漁業産出額は、宮城県が最も高く 3,957 万円となっており、東北平均を 1,979 万円上回り、約 2 倍の水準となっています（図 4）。

1 漁業経営体当たりの海面漁業産出額は、福島県が東北平均を 1,334 万円（91%）、宮城県が 1,244 万円（84%）上回り、それぞれ高い水準となっています（図 5）。

1 漁業経営体当たりの海面養殖業産出額は、宮城県が東北平均を 735 万円（146%）上回り、他県と比べて大幅に高い水準となっています（図 6）。

図 4 1 漁業経営体当たりの漁業産出額（漁業・養殖業）
（令和 6 年海面漁業・養殖業産出額
／令和 5 年漁業経営体数）

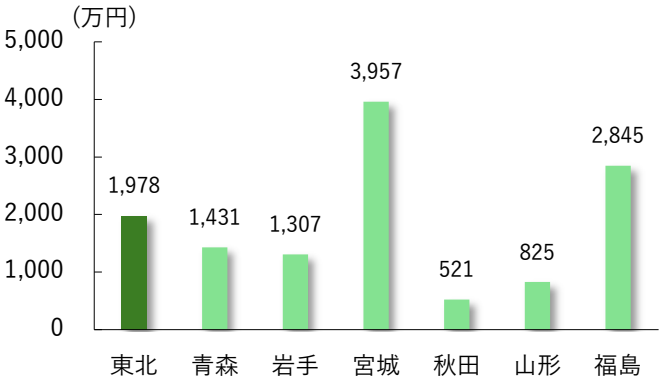


図 5 1 漁業経営体当たりの漁業産出額（海面漁業部門）
（令和 6 年海面漁業産出額／令和 5 年漁業経営体数）

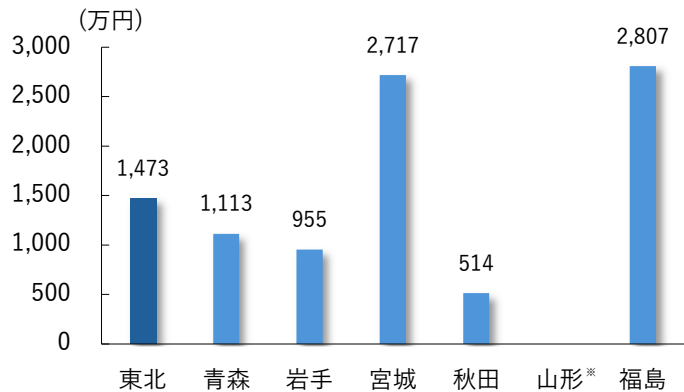
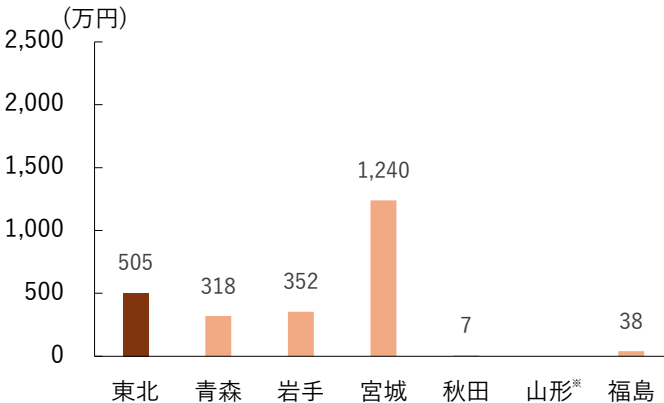


図 6 1 漁業経営体当たりの漁業産出額（海面養殖業部門）
（令和 6 年海面養殖業産出額
／令和 5 年漁業経営体数）

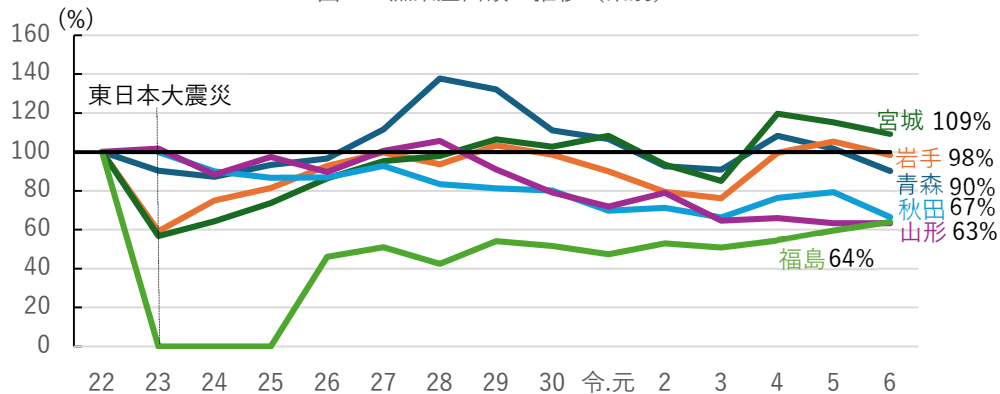


※図 5、図 6 の山形県は秘匿のため非表示とした。

東北6県の漁業産出額の推移

東北6県の漁業産出額について震災前（平成22年）と比較すると、福島県は低水準ながら回復傾向で推移しています。一方、青森県、岩手県、秋田県及び山形県では、海水温の上昇や魚種の変化等の影響を背景に、全体として減少傾向がみられます。こうした中、宮城県は109%と、東北6県の中で唯一震災前の水準を上回っています（図7）。

図7 漁業産出額の推移（県別）

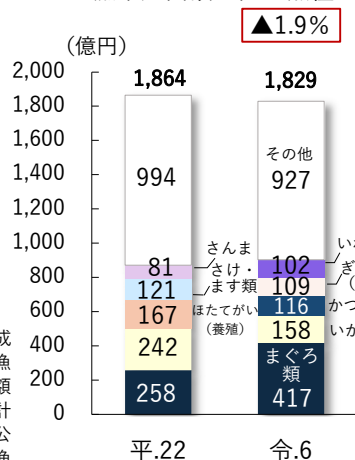


注：平成22年を100とした指数で比較している。

ただし、秋田県は平成22年の値が秘匿のため、平成23年を100として算出している。

東北合計と東北6県の動向（漁業産出額上位5魚種と部門別割合）

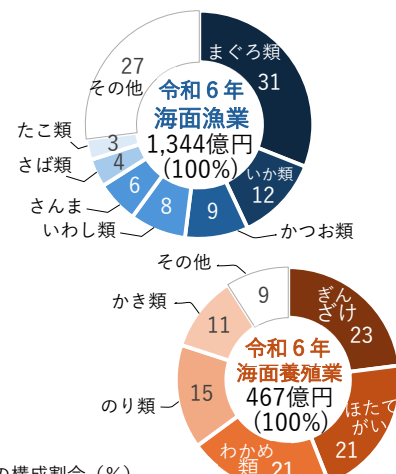
漁業産出額上位5魚種



注：秋田県の平成22年は、海面漁業・養殖業生産額及び海面養殖業計が秘匿のため、公表している海面漁業計のみ計上した。

東北の漁業産出額は、1,828億9千万円で、震災前（平成22年）の1,864億3千万円から35億4千万円（1.9%）減少しました。

これは、さけ・ます類 115億8千万円（95.3%）、いか類 84億5千万円（34.9%）の減少がみられ、海面漁業が92億3千万円（6.4%）減少したためです。一方、ぎんざけ（養殖）の大幅な増加がみられました。

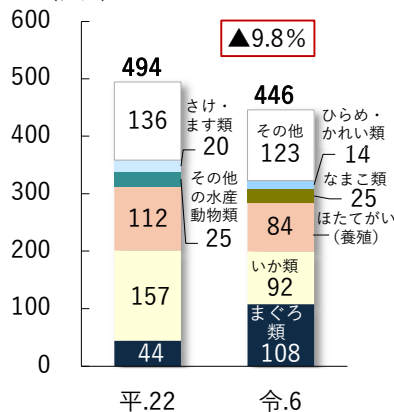


注：円グラフは、令和6年各部門の構成割合（%）。

漁業産出額及び構成割合は表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下同じ。）。

山形県の海面漁業及び海面養殖業産出額は、それぞれ秘匿となっているため含まれていない。

(億円)

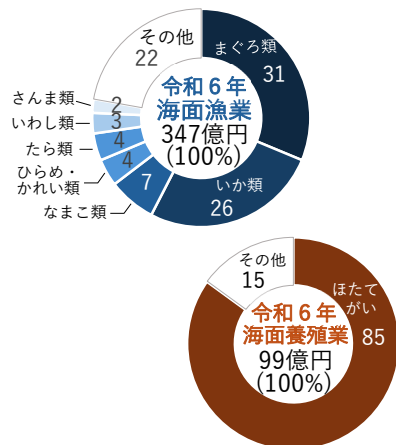


注：平成22年は、なまこ類がその他の水産動物類に含まれて表記されている。

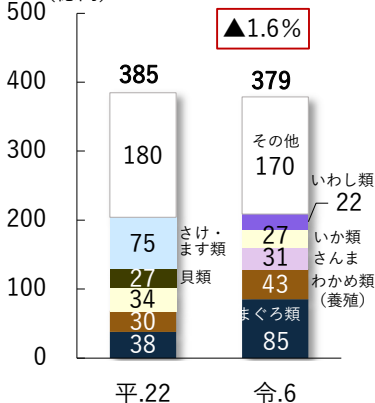
青森県の漁業産出額は、445億9千万円で、震災前（平成22年）の494億5千万円から、48億6千万円（9.8%）減少しました。

これは、いか類が65億3千万円（41.6%）、ほたてがい（養殖）が28億3千万円（25.2%）、さけ・ます類が16億7千万円（83.6%）減少したためです。一方、まぐろ類の増加がみられました。

なお、海面漁業産出額割合をみると、まぐろ類、いか類で約6割となっていて、海面養殖業産出額割合では、ほたてがい約9割となっています。



(億円)



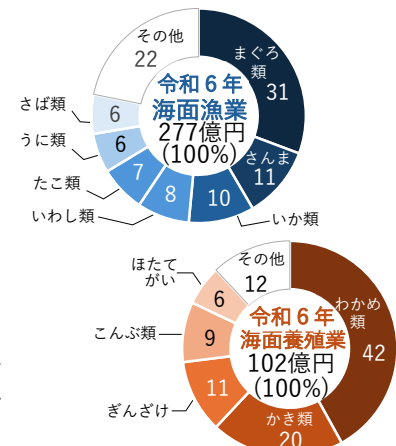
岩手

岩手県の漁業産出額は、378億6千万円で、震災前（平成22年）の384億7千万円から、6億1千万円（1.6%）減少しました。

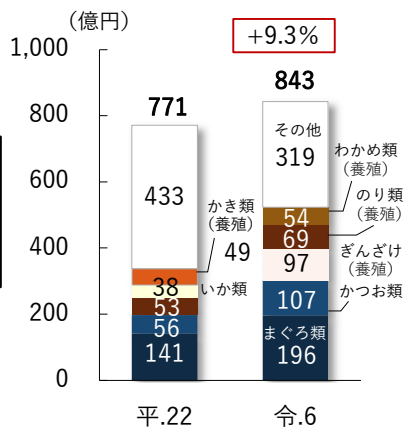
これは、さけ・ます類が74億2千万円（98.8%）減少したためです。一方、まぐろ類、いわし類の増加がみられました。

なお、海面漁業産出額割合をみると、まぐろ類、さんま、いか類で約5割となっています。

海面養殖業産出額割合では、わかめ類が約4割となっていて、次いで、かき類、ぎんざけの順になっています。

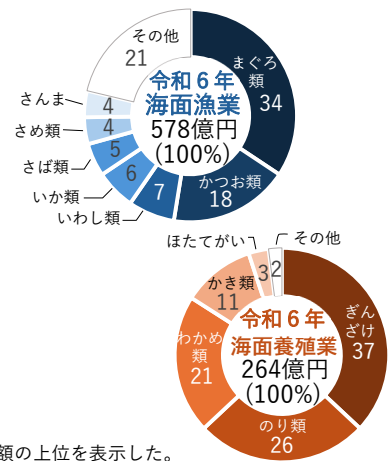


宮城

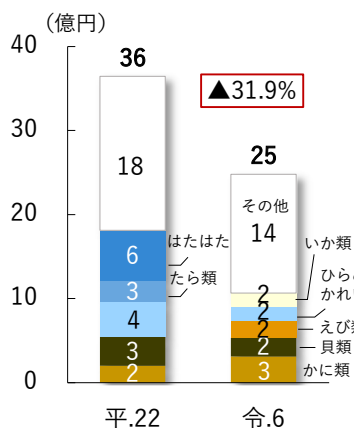


宮城県の漁業産出額は 842 億 5 千万円で、震災前（平成 22 年）の 770 億 8 千万円から、71 億 7 千万円（9.3%）増加しました。これは、まぐろ類が 54 億 8 千万円（38.8%）、かつお類が 50 億 5 千万円（89.6%）増加したためです。一方、かき類（養殖）、いか類の減少がみられました。なお、海面漁業産出額割合では、まぐろ類、かつお類で約 5 割となっていて、海面養殖業産出額割合では、ぎんざけが約 4 割となっていて、次いで、のり類、わかめ類、かき類の順になっています。

注：ぎんざけ（養殖）は平.22 は秘匿のため、公表している品目の産出額の上位を表示した。

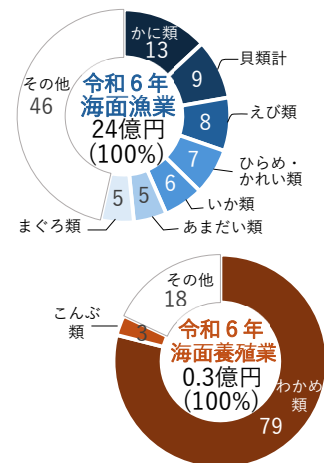


秋田

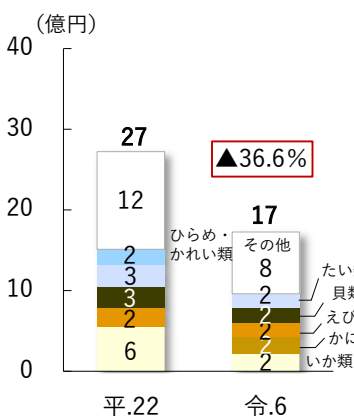


秋田県の漁業産出額は 24 億 8 千万円です。震災前（平成 22 年*）の海面漁業計 36 億 4 千万円から、11 億 6 千万円（31.9%）減少しました。これは、はたはたが 5 億 5 千万円（92.4%）、ひらめ・かれい類が 2 億 4 千万円（58.2%）、たら類が 2 億 1 千万円（80.7%）減少したためです。一方、かに類、えび類の増加がみられました。なお、海面漁業産出額割合では、かに類、貝類、えび類で約 3 割となっていて、海面養殖業産出額割合では、わかめ類が約 8 割、次いで、こんぶ類の順になっています。

*平成 22 年は、海面漁業・養殖業生産額及び海面養殖業計が秘匿のため、公表している海面漁業計のみ計上した。

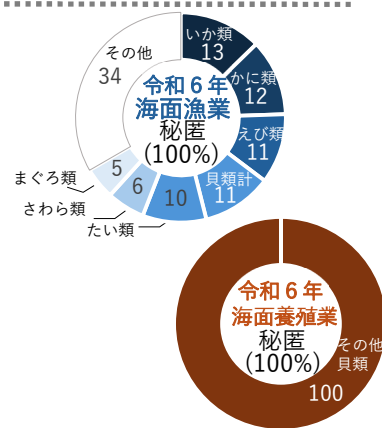


山形

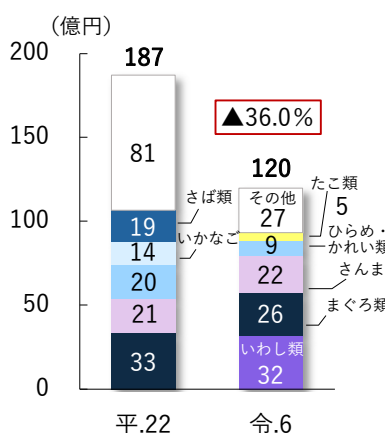


山形県の漁業産出額は 17 億 3 千万円で、震災前（平成 22 年）の 27 億 2 千万円から、10 億円（36.6%）減少しました。これは、いか類が 3 億 4 千万円（61.1%）、ひらめ・かれい類が 1 億 2 千万円（61.5%）、たい類が 1 億 1 千万円（39.9%）減少したためです。一方、かに類の増加がみられました。なお、海面漁業産出額割合をみると、いか類、かに類、えび類、貝類で約 5 割となっていて、海面養殖業産出額では、その他貝類のみとなっています。

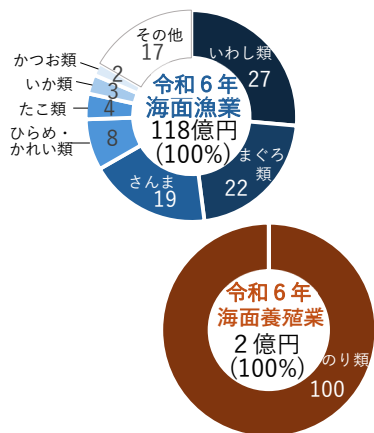
注：山形県の海面漁業及び海面養殖業産出額は、それぞれ秘匿となっている。



福島



福島県の漁業産出額は 119 億 8 千万円で、震災前（平成 22 年）の 187 億 1 千万円から、67 億 3 千万円（36.0%）減少しました。これは、さば類が 16 億 5 千万円（89.4%）、いかなごが令和 6 年に漁獲量がなく 13 億 8 千万円、ひらめ・かれい類が 11 億 5 千万円（56.3%）減少したためです。一方、いわし類の増加がみられました。なお、海面漁業産出額割合をみると、いわし類、まぐろ類で約 5 割となっています。海面養殖業産出額では、のり類のみとなっています。



-お問合せ- 農林水産省東北農政局統計部統計企画課 電話：022-745-9378

漁業産出額の詳しい情報は、こちらからご覧いただけます。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/gyogyo_seigaku/index.html

「まふナビ東北」のバックナンバーは、こちらからご覧いただけます

<https://www.maff.go.jp/tohoku/stinfo/bunseki/maffnabi.html>

農林水産省

